

本州最南端の サンゴの町

串本

黒潮とサンゴが創りあげる豊かな海、そして問題

和歌山県の最南端に位置する串本町。

本州の中で最も黒潮が接岸するというこの町の沿岸海域は

多種多様なサンゴ群落で埋め尽くされる豊かな海。

多くの日本人にとって、もっとも身近なサンゴの海とも言える。

およそ10年前、僕はこの海にはじめて出会い、

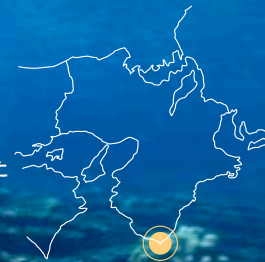
住み込みながら撮影を続け、

東京に戻った今でも毎年通い続けている。

この海の移り変わりを目の当たりにしてきた

「いちダイバー」として串本の素晴らしさ、

それと同時に今抱える問題を多くのダイバーに感じてもらいたい。



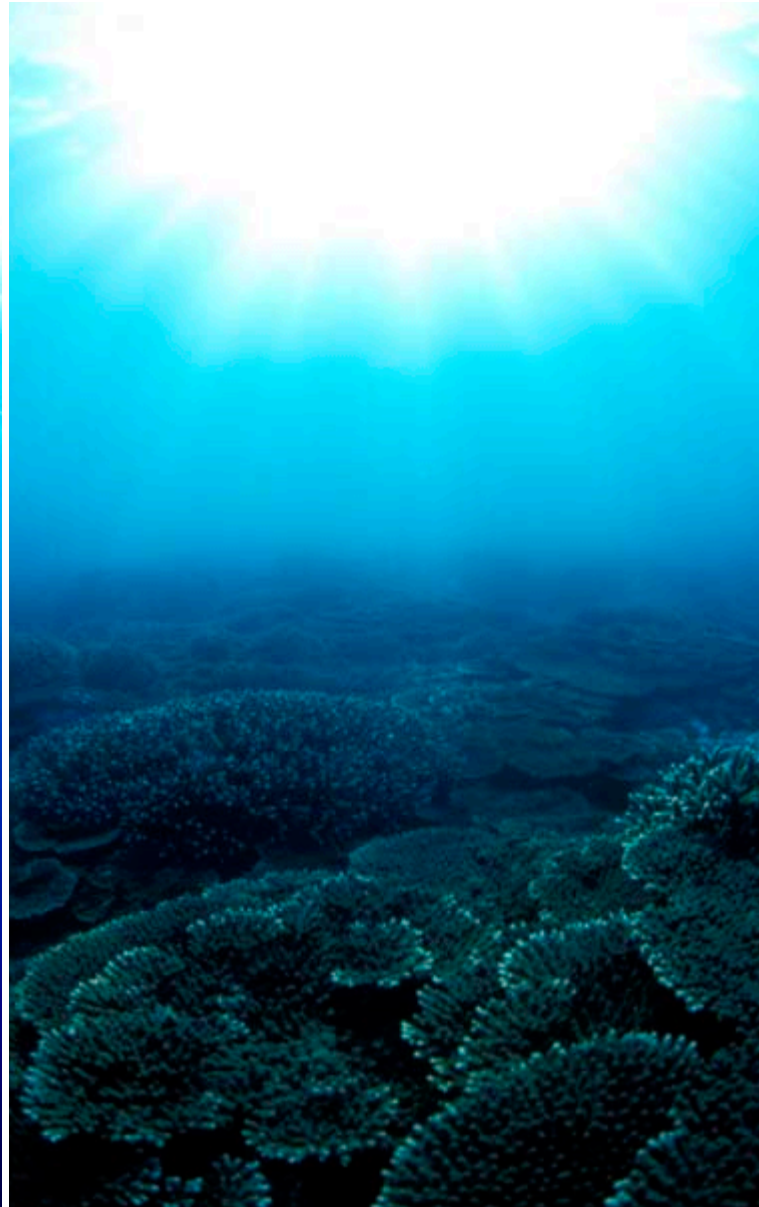
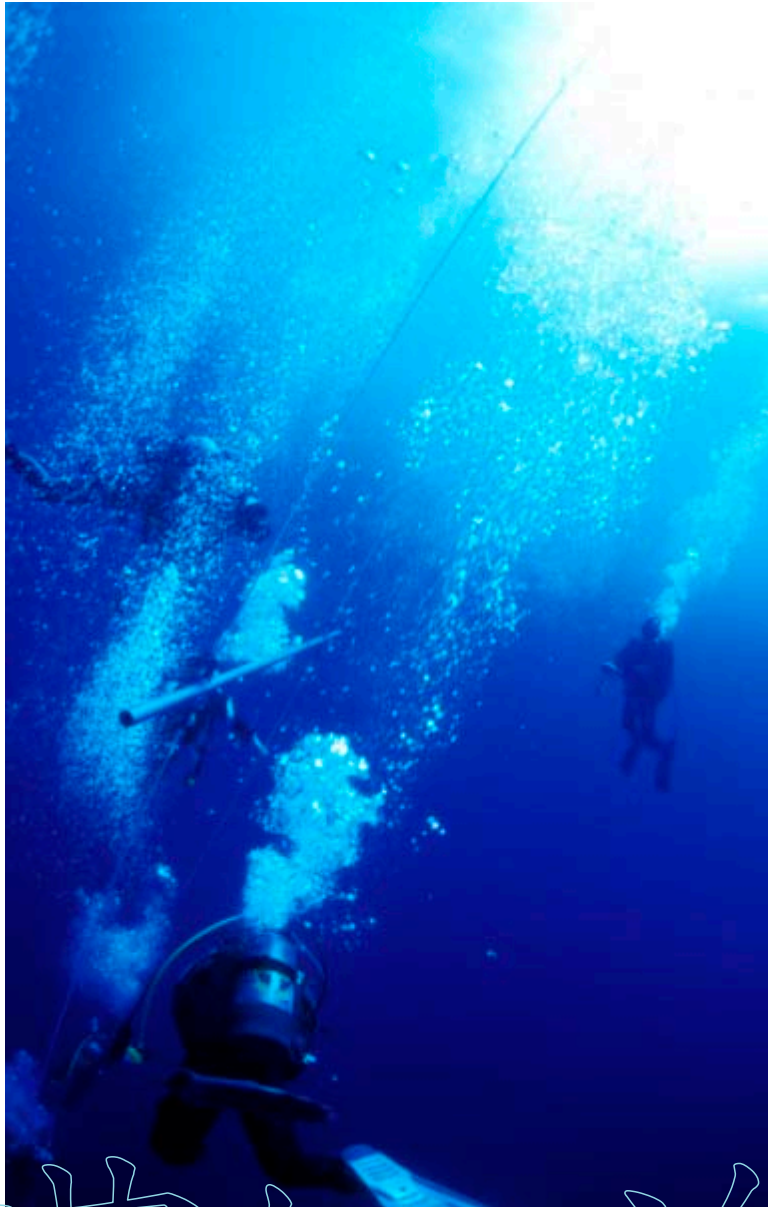
豊か の海

世界最大級の潮流 黒潮の恩恵

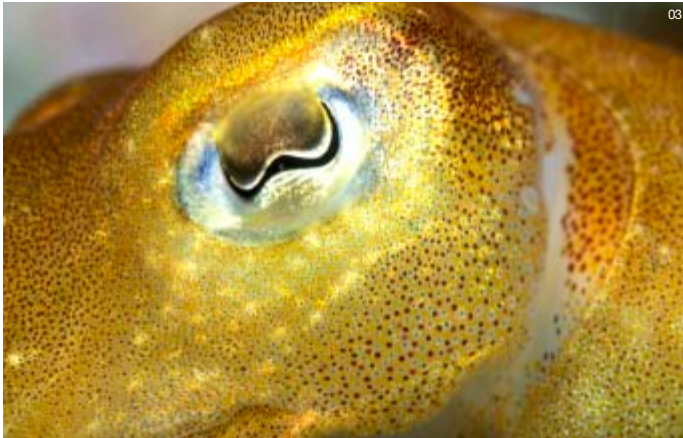
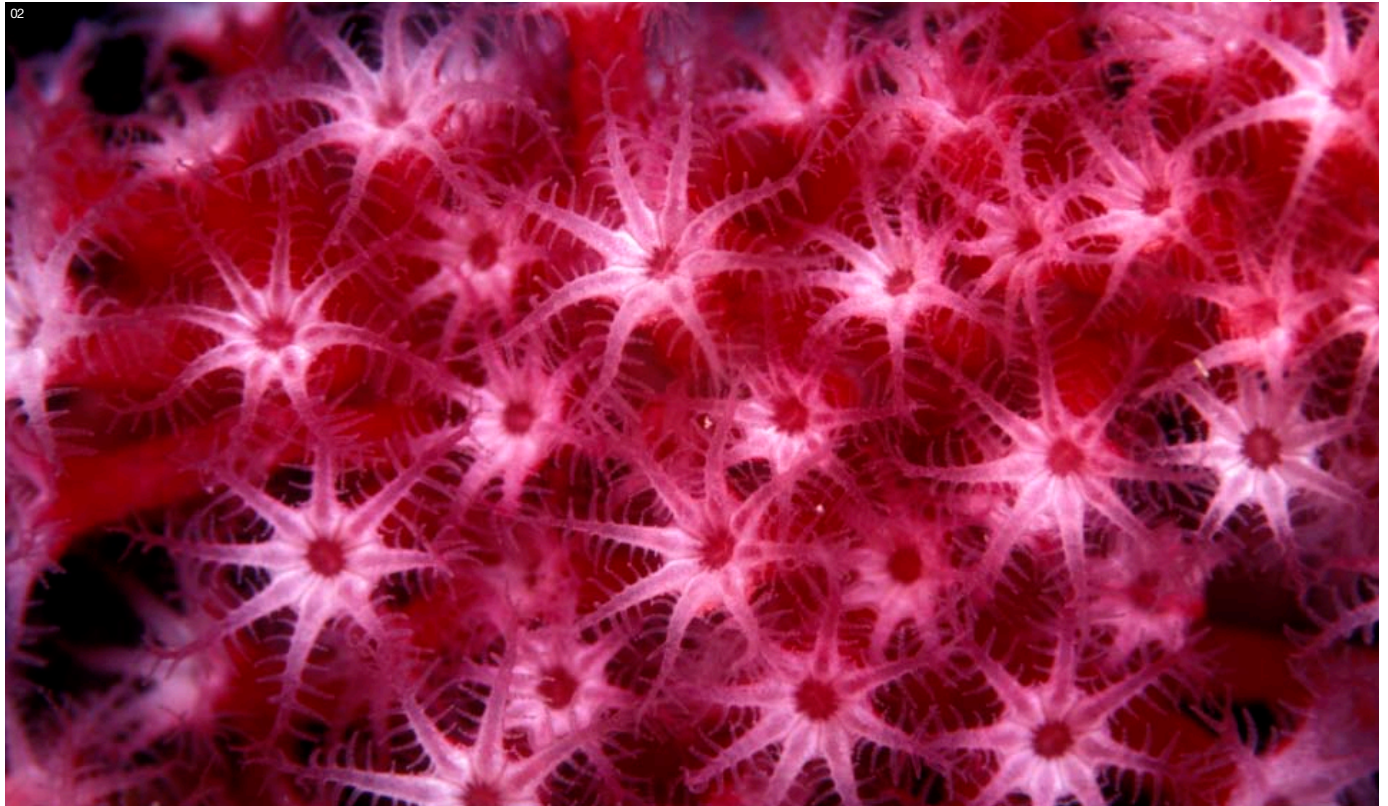
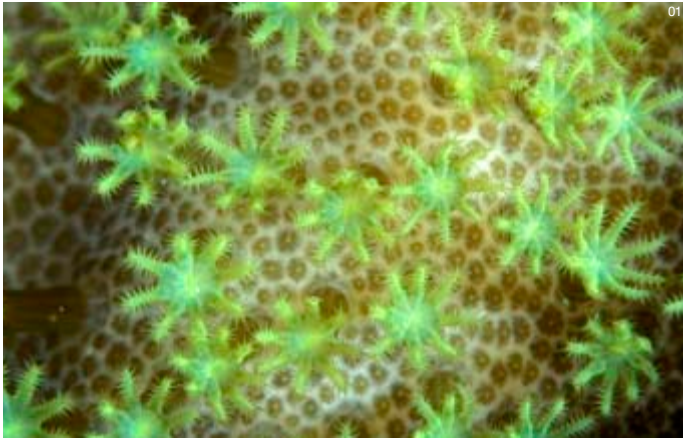
串本は地球上の二大海流と呼ばれる太平洋を流れる黒潮(もう一つは大西洋のメキシコ湾流)が岬に直接ブチ当たる場所。毎秒で3500万トンもの海水を時速5kmを超えるスピードで流れる、とてつもないパワーを秘めた暖流が串本沿岸を活性化させているという訳だ。ひとたび串本の海に潜れば本州のその他のダイビングディステーションとのギャップをすぐ感じることができる。エントリーまもなくから続くテーブルサンゴ(クシハダミドリイシ)の群落、それに依存し可憐に泳ぎ回るチョウチョウウオや色鮮やかなベラ。そう串本の海中景観はどこか沖縄など南の雰囲気を出している。これは紛れもなく黒潮の力がそうさせているのだろう。

黒潮によって育まれているサンゴやその他の生き物達は、一年を通して死滅することなくこの地に根付き産卵をするものも多い。そのサイクルが繰り返される事によって、串本の海はますます豊かになっていく。以前あるサンゴの研究者が話してくれたことは「串本は世界で一番北にあるサンゴ(が豊かな)の海なんだよ」という言葉。その言葉を聞いた時、陸続きの海でこれだけの環境が生きている串本の海を、もの凄く誇らしく思えたことを今でもよく覚えている。

個人的には朝日を受けているサンゴが一番キレイだと思う(上右)
紀伊大島の須江では黒潮に乗るブルーウォーターダイブが開催されている。凄い青です(上左)

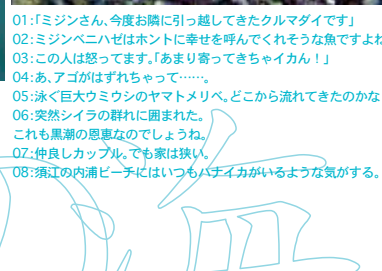


豊力の海



01:美しいグリーンของウミキノコの仲間、串本のグリーンベベですね。
02:ボウズコウイカ。何かマンガで見たことがあるような種だね。
03:こう見えても立派な動物なんですね。
04:キビレミシマ、いつ見てもすごい顔だよなあ……。
05:この子はおそらく生まれたばかり体長5mmほど。でも、泳ぎは僕らより巧い……。

不思議の海



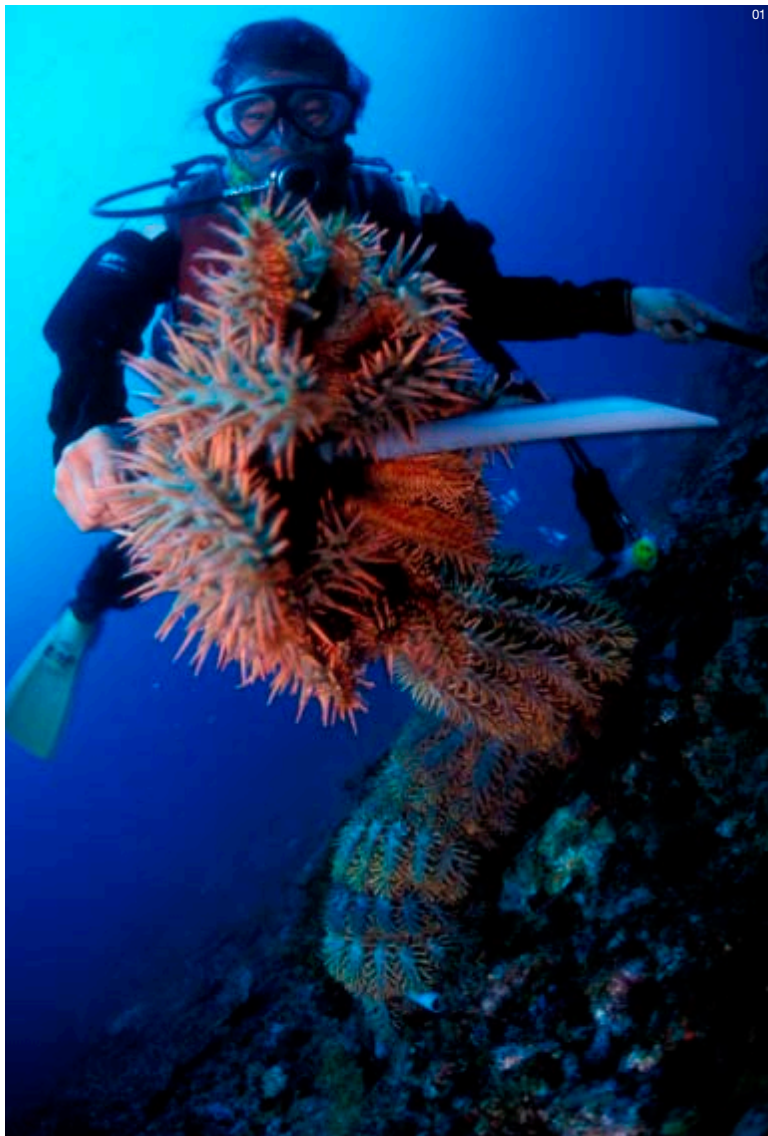
独特な生物層から感じる 温帯と熱帯の交差点

しかし地理的に考えると温帯域に属する串本。実は海の中の生物達も熱帯色は強いものの、伊豆などで見られる生物も数多く生息している。少し潜り込んで生き物などを撮影している人などはすぐに気がつくと思うのだが、一風変わった生き物の組み合わせがいたるところで見られるのである。例えを挙げだしたらキリが無いのだが、ハナイカがいるすぐ脇にネンブツダイがいたり、ミギマキが寝そべっている砂地の脇にはヤシハゼがいるというそんな感じ。全くもって節操の無い組み合わせ。不思議で特殊で面白い海である。もっと掘り下げて考えてみると、それだけの多様な生物が暮らせるということは、それだけ海中環境のバリエーションが多いということになる。串本の水中には様々な色が溢れかえっているんですね。



01:「ミジンさん、今度お隣に引っ越してきたクルマダイです」
 02:ミジンベニハゼはホントに幸せを呼んでくれそうな魚ですね。
 03:この人は怒ってます。「あまり寄ってきちゃいかん！」
 04:あ、アゴがはずれちゃって……。
 05:泳ぐ巨大ウミウシのヤマトメリベ、どこから流れてきたのかな？
 06:突然シイラの群れに囲まれた。これも黒潮の恩恵なのでしょうね。
 07:仲良しカップル、でも家は狭い。
 08:浜江の内浦ビーチにはいつもハチイカがいるような気がする。

不思議の海
Kushimoto
 Web-lue 2006. Summer

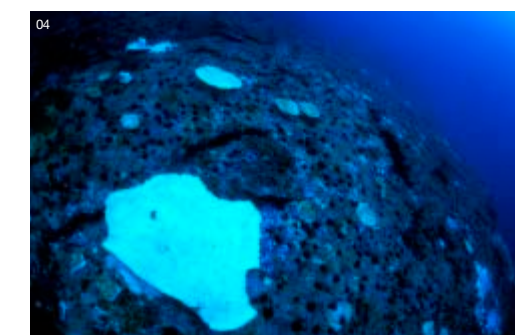


01:先を尖らせた塩ビのパイプで中心を刺し駆除していく。
02:一回約1時間の駆除で数百個体のオニヒトデが駆除されることしばしば。
03:大きな袋状のネットも活用される。
04:白く見えるところは全て被害され死滅したサンゴ。
05:目も当てられないほど痛々しく悲しい光景。何とかサンゴを護っていきたい。



抱える深刻な問題。 それもまた現実

ここまでは串本は豊かな海であるということをお伝えしてきた。だが豊かであるからこそ抱えている問題も確実に存在する。それはオニヒトデの異常繁殖。近年の世界的な水温上昇傾向に併せるかのように、串本ではそれまで冬場の低水温時に死滅していたはずのオニヒトデまでも越冬、抱卵し繁殖していることがわかった。串本町では海中公園センターの職員が中心となり、地元ダイビング業者をはじめボランティアのダイバーを募り定期的にオニヒトデの駆除活動を行っている。実際のところすでにダメージを受けているポイントもあるものの、多くのダイバーの協力により現在ではオニヒトデの大量増加は免れている。サンゴ群落が壊滅状態となればその周辺海域の生態系は大きく崩れてしまう。それを必死に食い止めようと努力している多くのダイバーがいる。美しく面白だけの海ではなく、日の当たり難い裏側を一人でも多くの人にってもらい、何かを感じてもらうことも必要なのかな？ 最近はそんな風にも考えたりする。



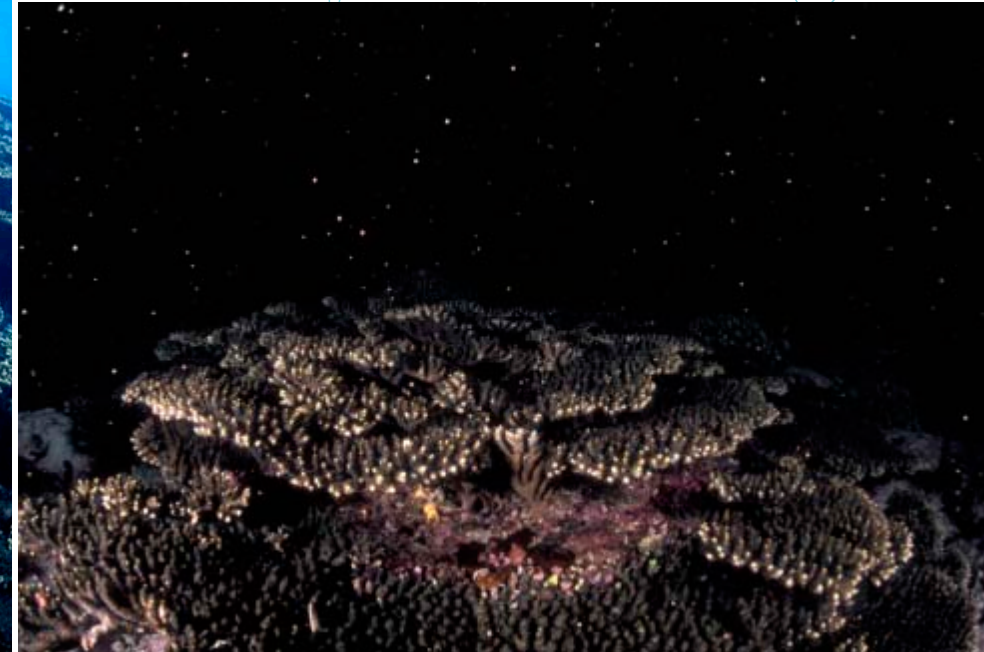
苦悩する海



生命の海

本州最南端の串本
サンゴの町

この美しい串本の海中景観が
いつまでも変わらずにあることを、心から願います。(左)
夏の夜、サンゴ達は自らが生き残っていく為に産卵を繰り返す。
感動的な瞬間。(下右)



それでも力強く生きています。
海が持つ強さと脆さを確認し、
ダイバーだからこそ出来る「何か」を考えていきたい。
そんなことを思っています。

— 古見 きゅう



古見きゅう

古見写真事務所主宰。
和歌山県串本町でダイビングガイドとして活躍した後、
水中写真家として独立し、世界の海を駆け回り取材を
続けている。現在は月刊ダイバーなどをはじめ様々な
媒体で作品を発表する。

WEBサイト <http://www.nines-photo.com/>

*取材協力
串本ダイビングパーク
和歌山県東牟婁郡串本町高富1157
TEL.0735-62-6091

<http://www.kushimoto.co.jp/diving/>

須江ダイビングセンター
和歌山県東牟婁郡串本町須江545
TEL.0735-65-8080

<http://www.zb.ztv.ne.jp/sue.d.c/>